

令和4年度の学校評価（目標と方策）

重点目標	学習に対する姿勢を整え、学力の向上を図るとともに、家庭や地域との連携を踏まえた学校教育活動全般の改善に努め、凛として清々しい個と品格ある校風づくりの確立を目指す。また、職員間の協力体制の在り方を検討し、勤務時間の適正な管理と教職員の適切なメンタルヘルスに努める。 1 家庭や地域から信頼される学校づくり 2 生徒の夢を実現できる学校づくり 3 品格ある校風づくり 4 教職員の健康維持に配慮した体制づくり		
担当	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	(1)防災体制の構築と、防災意識の強化。 (2)PTAの連携の在り方の考察と推進。	(1)従来の防災教育・防災対策に加え、防災講話などを取り入れ、震災など自然災害をより身近な問題として捉えられるよう、生徒、保護者、教職員の防災意識を向上させる。 (2)SNSなどの活用を含めたPTAの連携体制を作る。	(1)地域との連携を含めた防災のありかたを考え、自治体や地域自治会などとも連携した活動を行う。 (2)状況に応じた保護者と学校の連携の仕方を考える。
教務部	(1)新校務支援システムの活用の研究。 (2)効果的な評価・評定の活用。	(1)新校務支援システムの活用による、校務のスリム化に向けた検討をする。 (2)新指導要領における観点別の評価・評定の基準を明確にし、生徒の学習活動の活発化、学習効果へ結びつける。	(1)新校務支援システムの使用方法など、こまめに情報を示す。 (2)評価・評定の計画を立て、効果的に活用できるようにする。
進路指導部	(1)生徒の進路目標の確立と実現に向けての指導。 (2)チームとしての進路指導の推進。	(1)生徒の進路意識を向上させるため、日頃より進学に関する情報収集に努め、教職員と共有を図る。また、生徒の高い進路目標に向け、基礎学力のさらなる充実を図る。 (2)地域との連携を推進する。また、保護者向け進路説明会や保護者会を行い、保護者との連携を充実させる。	(1)進路行事や担任面接を通して、生徒の進路意識を刺激し、高い進路目標をもたせる。 (2)保護者、地域、関係機関との連携を強める。保護者、生徒、教員が情報を十分に共有できるように、進路検討会の充実を図る。
生徒指導部	(1)いじめ防止対策。 (2)高校生らしい身だしなみと交通安全意識の向上。 <b>【特別活動】</b> (1)生徒会を主体とした校内外の体験的な活動への積極的参加。	(1)いじめを防止するために、他の分掌と連携を密にして、全職員で取り組む。 (2)各月の身だしなみ指導の設定と交通モラル及び自転車乗車ルールの遵守を図る。  (1)学校行事への取組意欲を高めさせ、生徒自身が積極的に行動するようにさせる。 ボランティア活動への積極的な参加を促す。	(1)教員の生徒観察や学年会情報、担任面接、保健厚生部の「心のアンケート」などを利用して情報の共有を心掛け、協力体制を構築する。 (2)身だしなみ指導と校外指導を充実させ、多くの生徒に声をかけるよう、全職員で協力する。  (1)文化祭実行委員、文化・運動常任委員、HR役員の積極的な活用を行う。ボランティア意識を高めさせ、募金活動への積極的な参加を促す。
情報研修部	(1)ICTを活用した授業展開と校務での積極的な利用を進める。 (2)図書館の蔵書の充実と有効利用。	(1)教員のICT活用に有効な研修を企画し、実施する。 職員チームの有効利用を推進する。  (2)図書館の蔵書点検を実施し、蔵書の整理を行う。図書館だよりや館報を通じて生徒に図書を紹介する。	(1)ネットワークセキュリティーや個人情報の管理に注意しながら、校務や授業で積極的に利用する。  (2)図書館の利用者数の増加につながるような工夫を模索する。生徒の興味・関心のある図書を充実させる。
保健厚生部	(1)生徒保健委員会活動の活発化 (2)生徒全体の健康や清掃に対する意識の高揚。 <b>【教育相談・特別支援教育】</b> (1)教育相談が必要な生徒の情報の共有化と早期の対応。	(1)教室の換気や手洗い徹底させ、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防を図る。 (2)ゴミの分別の徹底およびゴミの減量化を図る。また、環境美化に努める。  (1)欠席の多い生徒の情報を収集し、早期に対応する。相談室の利用を促進する。スクールカウンセラーとの連携を密にする。	(1)クラス単位での奉仕活動を通して学校全体で環境美化に取り組む。 (2)ゴミ分別を啓発し、日々実践させ、清掃の徹底を図る。  (1)教育相談では、欠席数や学校生活の様子から早期に対応する。 スクールカウンセラーや家庭との連絡を密にし、臨機応変に対応する。生徒の身体的、精神的な状態について教員間の情報共有を図る。
生活文化科	(1)各コースの特性を活かした魅力ある授業内容の精選。 (2)地域と連携・協働したスペシャリストを目指す生徒の育成。	(1)各コースの特性に応じた実践的・体験的授業の充実を図り、資格取得を目指す。 外部講師による講習会を適切な時期に実施し、より専門的な知識・技術の確実な習得を図る。 (2)キャリア教育の充実を図り、社会人・職業人として必要となる基礎的・汎用的能力を身につけさせる。 インターンシップにおいて、事前・事後の学習に力を入れ、成果発表会を実施し、生徒のキャリア形成と関連づけさせる。	(1)資格試験や検定の目標を明確にし、第1学年から基礎的・基本的な知識・技術の定着を図り、応用へと発展させることで、合格に結びつける。外部講師による各講習会を複数回実施し、より高い学習目標の達成を目指す。 (2)高大連携事業やインターンシップ活動に積極的に取り組み、コミュニケーション能力や意欲的な態度を養う。 目的を明確にしたインターンシップを充実させ、より専門的な知識・技術を習得するための機会を設ける。
第1学年	(1)規則正しい生活習慣と規範意識を確立させる。「気持ち良い挨拶と掃除のできる学年」を目標とする。 (2)学習習慣を確立させる。 (3)部活動・学校行事に全力に取り組む。	(1)朝、帰りのST、授業の始めと終わりの挨拶を元々よくできるようにする。 遅刻、欠席、早退をなるべく少なくする。担任会・学年会で共有し、クラス・学年集会等で呼びかける。 (2)授業をとにかく大切に。そのため教科担任と連携し、予習・復習を徹底させる。家庭学習を習慣化させる。 (3)特活や部顧問と連携し、生徒が部活動・学校行事に積極的に取り組むことができるように支援する。	(1)生徒指導部と連携し、日頃の身だしなみや交通ルールの遵守、携帯電話の使用規定など、規範意識の確立に努める。  (2)学習時間記録簿や個人面接を通して実態把握に努め 教科担任と連携し適切な指導、助言を行う。 (3)部活動・学校行事に積極的に取り組むことにより、意欲的に学校生活を送れるようにする。
第2学年	(1)社会人としての基礎力の養成。 (2)将来を見通し、前向きに学校生活に取り組むことができる人材の育成。	(1)基本的な生活習慣を確立させる。 授業規律を徹底し、教室環境を整備する。  (2)進路目標を明確にさせ、学習だけでなく部活動や学校行事にも積極的に取り組ませる。	(1)生徒指導部と連携し、遅刻指導や身だしなみ指導、携帯電話使用方法を徹底する。また挨拶や返事などの礼儀もきちんとさせる。授業に集中させ、学習を充実したものにさせる。また清掃活動にきちんと取り組ませる。 (2)進路指導部と連携し、進路講話や模擬授業を企画し、模擬授業やオープンキャンパスに参加させ、明確な進路目標を持たせる。様々な学校行事を通して、前向きに考え行動する意識を持たせる。
第3学年	(1)社会人としての基礎力の確立。 (2)個人能力の伸長と進路目標の実現。	(1)基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。社会性や公共心を育成する。  (2)学力を充実させ、進路目標を実現させる。特別活動に積極的に取り組ませる。	(1)時間厳守や身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、社会人としての基礎力を確立させる。係の仕事や清掃活動等への取り組みを通して周囲と協調し、気配りのできる心を養う。 (2)授業後や土曜学習会、課外や校外模試などを利用して実力を養い、目標実現に向け最後まで諦めずに努力させる。最高学年として、様々な活動に意欲的、積極的に取り組ませ、学校生活を充実させる。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	・家庭や地域から信頼される学校づくりを目指した方策と実践を行う。 ・特色ある学校作りとともに、地域との連携を行う。 ・学校いじめ防止基本方針に基づく取組を行う。 ・在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともにストレスチェックの結果の活用等を通じて教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。		

令和3年度の学校評価（評価結果と課題）

重点目標	学習に対する姿勢を整え、学力の向上を図るとともに、家庭や地域との連携を踏まえた学校教育活動全般の改善に努め、凜として清々しい個と品格ある校風づくりの確立を目指す。 1 家庭や地域から信頼される学校づくり 2 生徒の夢を実現できる学校づくり 3 品格ある校風づくり		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	(1)防災体制の構築と、防災意識の強化。 (2)感染症流行下における新しいPTA連携の在り方の考察と推進。	(1)地域との連携を進め、より実践的な防災体制を整える。また、防災訓練などを通し、生徒、保護者、教職員の防災意識を向上させる。 (2)SNSなどの活用を含めたPTAの連携体制を作る。	(1)大規模地震発生時の対応について、自治会および豊橋市防災危機管理課の職員と会合を持ち、学校の役割について確認することができた。また、防災訓練等を通して、非常時の対応を確認した。 (2)新型コロナウイルス感染拡大の影響で、PTA 総会は回答をネット上で回収し結果をオンラン動画で配信、役員会・評議員会も紙面決議になるなど、対面での確認ができないことが多かった。
教務部	(1)校務支援システムによる指導要録の作成。 (2)新指導要領の実施に向けた準備	(1)校務支援システムで指導要録の作成を電子化する。コンピュータデータの活用により各種表簿の作成を効率化する。 (2)成績処理のシステムなど新指導要領の施行に対応する準備をする。	(1)指導要録の作成については、校務支援システムの活用が浸透してきている。昨年度の経験も踏まえてより効率化できた。 (2)新校務支援システムの導入となり、その準備をしている。来年度できるだけスムーズに移行できるようにしたい。
進路指導部	(1)生徒の進路目標の確立と実現に向けての指導。 (2)チームとしての進路指導の推進。	(1)生徒の進路意識を向上させるため、日頃より進学に関する情報収集に努め、教職員と共有を図る。また、生徒の高い進路目標に向け、基礎学力のさらなる充実を図る。 (2)地域との連携を推進する。また、保護者向け進路説明会や保護者会を行い、保護者との連携を充実させる。	(1)進路検討会などを利用し、収集した情報を各学年に提供し、共有を図った。できる限り例年と同じ進路行事を確保し、進路意識を刺激し、高い目標を維持させることができた。 (2)動画配信で情報発信するなど、保護者、生徒、教員がどんな状況下でも情報を得て、共有できるよう努めた。
生徒指導部	(1)いじめ防止対策。 (2)高校生らしい身だしなみと交通安全意識の向上。	(1)いじめを防止するために、他の分掌と連携を密にして、全職員で取り組む。 (2)各月の身だしなみ指導の設定と交通モラル及び自転車乗車ルールの遵守を図る。	(1)各学期のアンケート調査や教員の日常的な観察及び生徒の情報交換会を通して、いじめの早期発見早期対応に努めた。 (2)交通安全指導や事故報告、外部からの意見を機会として捉え、交通ルール・マナーの向上に努めた。また教員の学校評価結果から授業を通じての身だしなみ指導が今後の課題であると感じた。
	【特別活動】 (1)生徒会を主体とした校内外の体験的な活動への積極的参加。	(1)学校行事への取組意欲を高めさせ、生徒自身が積極的に行動するようにさせる。ボランティア活動への積極的な参加を促す。	(1)今年度も新型コロナの影響で、行事の延期や中止が相次ぎ、制限のある中での活動となったが、そのような中でも生徒は積極的に活動できた。校外の活動もなかなかできず、ボランティア活動も校内での募金活動、緑化活動のみとなった。
情報研修部	(1)情報化の推進および教員の資質の向上につながる研修の実施。 (2)図書館の有効利用と充実。	(1)ホームページを活用しての情報発信を活発化する。教員のICT活用にも有効な研修を企画し、実施する。 (2)図書館報や図書委員会を通じて図書館の魅力を周知させ、蔵書図書を充実する。	(1)学校ホームページの更新を随時行い、必要な情報の発信や情報の伝達ができる。一方でICT活用のための研修や実施は一部の教員に留まった。 (2)読書の推進や図書館の利用についてはほとんどの生徒ができておらず、教員の意識とやや乖離がある。
保健厚生部	(1)生徒保健委員会活動の活発化。 (2)生徒全体の健康や清掃に対する意識の高揚。	(1)教室の換気や手洗い徹底させ、新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防を図る。 (2)ゴミの分別の徹底およびゴミの減量化を図る。また、環境美化に努める。	(1)新型コロナ感染症予防対策のため、マスク着用、教室の換気、手洗い・手指消毒について概ね徹底することが出来た。 (2)保健委員を通じてゴミの分別を指導し、概ね良好であった。
生活文化科	(1)コース別の特性を活かした魅力ある授業内容の確立。 (2)地域との連携に重点を置いた、スペシャリストを目指す生徒の育成。	(1)各コースの特性に応じた実践的・体験的授業の充実を図り、資格取得を目指す。外部講師による講習会を適切な時期に実施し、より専門的な知識・技術の習得を図る。 (2)キャリア教育に関する取組の拡大を図り、社会で求められる基礎力を身に付ける。事前・事後指導に力を入れ、キャリア教育の成果に関する発表・討論を実践する。	(1)資格取得に関しては、受検の方法が大きく変更されたり、感染症対策の配慮が必要になったりしたが、丁寧な個別指導を取り入れ、高い合格率を維持できた。外部講師による講習会は、延期や中止になったものもあったが、全般的には生徒の学びに対する向上心を育み、知識・技術の習得に成果を上げた。 (2)新型コロナウイルス感染症の蔓延で、福祉・医療分野と一部の事業所でインターンシップが実施できなかつたり、実習回数を減らすことを余儀なくされたりした。キャリア教育について、校内で充実した取り組みができるよう、次年度も検討していきたい。
第1学年	(1)基本的な生活習慣と規範意識の確立。 (2)学習習慣の確立。	(1)高校生の本分を中心とした生活習慣を確立し、自己管理能力を育成する。校則を遵守し、豊丘高校の一員として、落ち着いた学校生活を送らせる。 (2)予習をして授業に臨み、復習して学習内容を定着させるよう、家庭学習の習慣化を図る。 授業に意欲的に臨み、主体的かつ能動的に学習する態度を身につけさせる。	(1)多くの生徒が良い生活習慣を身につけて生活しているが、就寝時間が遅い者、朝自力で起きられない者、学校のルールが守りきれない者などがいるので、継続して声掛けをしていきたい。 (2)多くの生徒が、本校の授業のスピードや内容の進み方、日々の授業準備などに慣れてきているようである。しかし、予習・復習だけでなく各教科の課題に取り組み切れない生徒が少なからずいるようである。授業や自身の時間の使い方についてや、自身の将来を考えたところから逆算して何が必要か考えることなどを、より一層促す必要性がある。
第2学年	(1)社会人としての基礎力の養成。 (2)将来を見通し、努力できる人材の育成。	(1)基本的な生活習慣を確立させ、授業規律を徹底し、教室環境を整備する。 (2)進路目標を明確にさせ、学習習慣を確立して学力の充実を図る。	(1)多くの生徒が良好だが、まだ確立できていない生徒もおり、次年度も継続的に指導する。大半の生徒が、教室整備と共にロッカー周辺の整備を心がけることができ、落ち着いて授業を受けることができた。 (2)多くの生徒が進路目標が明確になり、学習記録などを活用し、計画的に学習を行うことができた。しかし、学習習慣が身につかず伸び悩んでいる生徒もいたため、次年度も継続的に指導する。
第3学年	(1)社会人としての基礎力の確立。 (2)個人の能力伸長と進路目標の実現。	(1)基本的な生活習慣と規範意識を確立させ、社会性や公共心を育成する。 (2)学力を充実させ、進路目標を実現させる。特別活動に積極的に取り組ませる。	(1)多くの生徒が良好ではあるが、長期休暇後や受験期になると生活習慣が乱れ、往々にして自分本位の考え方になる生徒が見られた。公の立場での視点を身につけることが必要である。 (2)進路目標の実現のために非常に努力した生徒が多い反面、どのように実力をつけるべきかわからない生徒もいた。そのような生徒に対しての、様々なアプローチでの個々のサポートがますます必要になってきている。
総合評価	・家庭や地域から信頼される学校づくりを目指し、教科、分掌、学年を中心に教職員とPTAの連携を図りながら、積極的な活動ができた。 ・学校関係者評価委員会でいただいたご意見やご要望をもとに、特色ある学校づくりのための次年度への課題を確認することができた。		